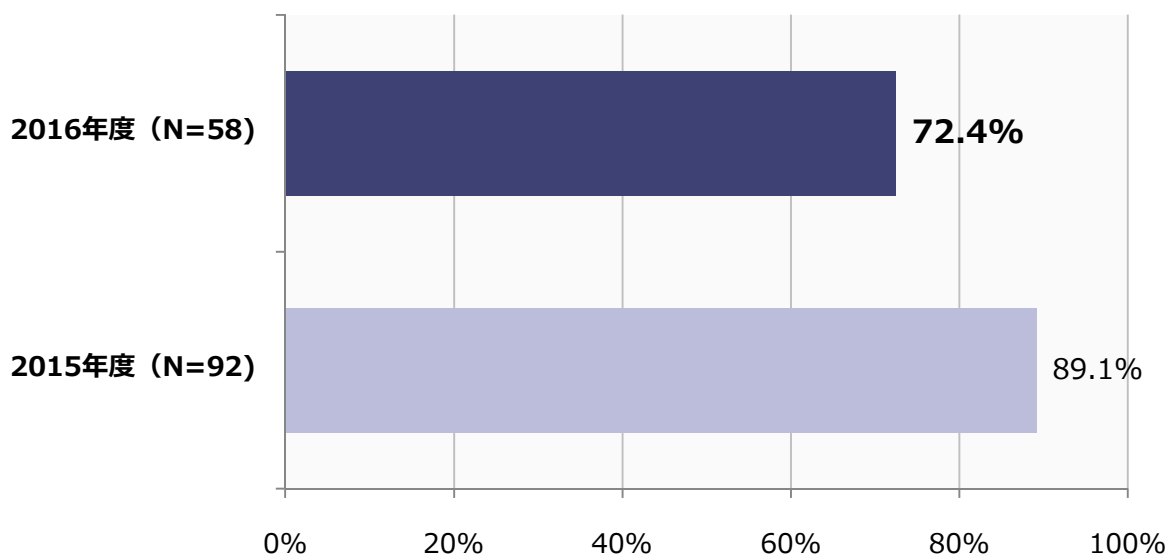


## 骨盤リンパ節廓清術後の下肢リンパ浮腫の評価・指導の実施率

骨盤リンパ節廓清術を行った患者の約25%にstageII以上の下肢リンパ浮腫が発生します。発症すると完治は期待できないが、早期治療でむくみを抑え、日常生活に支障がない状態に保つことは可能です。治療にはスキンケア、用手的リンパドレナージ、弾性包帯などの複合的理学療法が第1選択であり、保存療法が無効の場合には手術療法も検討されます。発症早期からの適切な生活指導と保存療法が増悪を予防するため、術後早期の介入が必要です。



### 当院値の定義・算出方法

**分子：** 骨盤リンパ節廓清術後3ヶ月以内に、リンパ浮腫外来にて

下肢リンパ浮腫の有無の評価と指導を受けた患者数

×100 (%)

**分母：** 骨盤リンパ節廓清術を受けた婦人科悪性腫瘍患者数

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

### 考察および今後のとり組み

今回、退院後すぐに他院での放射線治療へ移行した3例は分母から除外しました。

受講率が72%と低く、予約漏れが12例、本人希望での未受講が2例、病状急変での受講不可が1例でした。

予約をしたが受診しなかった例は1例のみであり、予約漏れを防ぐことによって、受講率の増加が見込まれます。

退院時の予約の確認、術後検診の際の予約漏れの確認が重要と思われれます。

文責：産婦人科主任部長  
坂井 邦裕